

1. O FORTUNA

オー フォルターナ ウェルクト ルナ スタトゥ ヴァリアビリス
O Fortuna, velut Luna statu variabilis,
 おお 運命の女神 ~のように 月 姿 変化する

セムペル クレスツイス アウト テクレスツイス ヴァイター テステスビリス
semper crescis aut decrescis vita detestabilis
 常に 大きくなる また 小さくなる 人生 呪われる 忌まわしい

ヌン コプトゥラト エト トンク クラト ルドゥオ メンティ サツイェム
Nunc obdurat et tunc curat ludo mentis aciem.
 今 耐える そして やがて 気を配る 遊び 心 まなざし

エゲスターテム ポテスターテム テイスソルヴァイトラト グラーツイェム
egestatem, potestatem dissolvit ut glaciem
 貧乏 権力 溶ける のように 氷

ソルス シマニス エ テイニス ロータ トゥ ウォルヴビリス
Sors immanis et inanis, rota tu volubilis,
 運命 恐ろしい そして 空虚な 車輪 あなたは 廻転する

スタトゥス マルゥス ヴァナ サルゥス セムペル テイスソルヴビリス
status malus, vana salus semper dissolubilis
 状態 悪い むなし 救い 常に 無に帰する

オブウマブラータ エト ヴァエラタ ミヒ クゥォクゥェ ミテリス
obumabrata et velata michi quoque miteris
 かげでおおう かくす 私を ~も又 狙う(得ようとする)

ヌンク ペル ルドゥタム ドゥルゥスヌム ヌドゥタム フェロ トゥイ スツェレリス
nunc per ludum dursum nudum fero tui sceleris
 今 ~の為に 遊び 背中 裸の 耐え忍ぶ 甘受する あなたの 犯罪

ソルス サルゥティス エト ヴァイェルツァーティス ミヒ ヌンク コントラーリア
Sors salutis et virtutis michi nunc contraria,
 運命 救いと徳 私に 今 反して

エス タフフェクトゥス エト デフェクトゥス セムペリ ナンガリア
est affectus et defectus semper in angaria;
 ~である 情欲 と 衰微 いつも ~のうちに 強制奉行

ハア キン ホーラ シネ モーラ コルデ プアルスクム タンギーテ
Hac in hora sine mora corde pulsum tangite,
 ここで * 時 ~なしに 休み 弦 ならず つかむ

クゥォト ペル ソルテム ステルニト フォルテム メクゥ モムネス プランギーテ
quod per sortem sternit fortem, mecum omnes plangite!
 (*代) ~によって 運 打ちのめす 力のある者 私と先に すべての人 悲しみ泣く

1. O FORTUNA

おお運命よ まるで月のように 姿は変わる

常に満ち 常に欠ける 不快なこの世も

つらいのは一時 次には気まぐれに 遊戯の心に味方する

貧乏も権力も しょせん氷のようにとかし去る

恐ろしい空虚な運命よ 汝はまわる車のようだ

汝は悪しき状態のもとに健やかなるものを病まし思うままに砕き去る

衣をまとい ヴェールに隠れた姿で 汝は私をも悩まさずにおかない

では汝のまな板の上に この裸なる背中を晒し 汝の悪行に委ねるとしよう

健やかなる健康の恵みも たくましき力も 汝運命は私からむさぼり

おかし さいなむ すべて思うがままに

今こそただちに 弦をかき鳴らし

運命の車輪の下に 強者を亡ぼせし者を呪いて皆 私と共に泣くがよい

2. FORTUNE PLANGO VULNERA

フオ^ルトウ^ネ プ^ランコ^ウ ヲ^ウルネ^ラ ス^テイル^{アン}ティ^ブウ^ウ ソ^ツェル^{リス}
Fortune plango vulnera stillantibus ocellis,
 運命 嘆く 傷 涙したたる 小さな目

ク^ワオ^ト ス^ウア^ミヒ^ムネ^ラ ス^ウア^トラ^ヒト^レベ^ルリス
quod sua michi munera subtrahit rebellis
 もりを 彼女が(運命の女神) 私に 贈る 遠ざける 反抗的に

ウ^エル^ウ メ^スト^クワ^オト^レギ^トウ^ル フ^ロン^テ カ^ピル^テア^タ
Verum est, quod legitur fronte capillata,
 本当の ~である ~こと 読む 額 毛髪の**

セ^ト プ^レル^ウム^クウ^エ セ^クウ^イト^ウル^カシ^オー カ^ルウ^アア^タ
sed plerumque sequitur occasio calvata,
 然し 最も多くは 続いてくる 機会 禿げている

イン フ^オル^トウ^ネ ソ^リオ^セテ^ラ メ^トラ^ウス
In Fortune solio sederam elatus,
 ~に 運命 王座 坐る 誇りを持って

プ^ロス^ペリ^タテ^イス^ウアリ^オ フ^ロレ^コロ^ナト^ウス
prosperitatis vario flore coronatus;
 幸せな 色とりどりの 花 (花で)飾る

ク^ウイ^スク^ウイ^テニ^ム フ^ロウ^ルウ^イ フェ^リク^セト^ベア^トウ^ス
quisquid enim florui felix et beatus,
 いかに~であつても もちろん 花 幸福な そして 祝福される

ヌ^ン カ^スム^モ コ^ルル^イグ^ロー^リア^プリ^ウア^トウ^ス
nunc a summo corruī gloria privatus
 今 崩壊する 栄光 個人の

フ^オル^トウ^ネ ロ^タ ウ^オル^ウイ^トウ^ル デ^エス^ツェ^ント^ウオ^ミノ^ラト^ウス
Fortune rota volvitur; descendo minoratus;
 運命 車輪 廻る 下る 小さくなったもの

アル^テ リ^ン アル^トウ^ム ト^オル^リト^ウル^ニミ^セキ^{サル}タ^トウ^ス
Alter in altum tollitur; nimis exaltatus
 二つのうち一つ ~に 高い所 引き上げる 非常に 高める

レ^クス^セテ^{イン} ウ^エル^テイ^ツェ^カウ^エア^トル^イク^ム
Rex sedet in vertice caveat ruinam!
 王 坐る ~に 天辺に 閉心する 没落

ナム ス^カ ハ^クセ^レギ^ムス^ヘク^ウハ^ム レ^キー^{ナム}
nam sub axe legimus Hecubam reginam
 何となれば ~の下に 車軸(**) 読む ヘクバ 女王

2. FORTUNE PLANGO VULNERA

私は運命の与えた傷に泣く 目にあふれる涙

かつて 与えてくれた恵みを運命は 再び背いて奪う

事実 書にもいわく「黒髪 豊かな者も

時がくれば失う その髪を」と

運命の王座に かつて誇らかに座っていた

栄華の色とりどりの 花で飾られていた

だがかつて いかに栄え 幸福と恵みに満ちていようと

今は落ちぶれ果ててしまった 名誉も奪われてしまった

運命の車は回る ある者はその下にさらされ

ある者は高きに昇る いとも誇らかに

王は頂に座っている だが 心するがいい

運命の車軸にあきらかに 記されし女王ヘクバの名

3. VERIS LETA FACIES

ヴェーリス レタ ファツイエス ムント プロピナトウ
veris leta facies mundo propinatur,
 真の 顔 世界 近づく

ヒエマーリ サツイエス ヴァイクタ イム フウガトウ
hiemalis acies victa iam fugatur,
 冬の 苛酷な すでに 消える 逃げる

イン ヴェステイトウ ヴァリオ フローラ プリンツィパトウ
in vestitu vario Flora principatur,
 ~で 衣服 変化のある フローラ 支配する

ネモラム ドゥルツィソノ クヴェ カントウ ツェレブラトウ
nemorum dulcisono que cantu celebratur,
 森 優しく奏でると同時に 歌う 祝賀の 賑やかな

フローレ フクスクス グレミア フェーブス ノボ モレ
Flore fusus gremio Phebus novo more
 フローラ 横たわる ひざ フェーブス 新しい 時

リスム ダト ホク ヴァリオ イム ステイパテ フローレ
risum dat, hoc vario iam stipate flore
 笑い 与える その中へ 色々な 今や 満たす 花

ツェフゥルウス ネクタレオ スピランス イン オドレ
Zephyrus nectareo spirans in odore
 西風 甘美な 吹く ~で 香

ツェルタテム プロ プラウイオ クララムス イン アモレ
Certatim pro bravio curramus in amore
 競って の為に 賞品 疾走する に 愛

ツュタリツァト カンテコ ドゥルツィス フィロメナ
Cytharizat cantico dulcis Philomena,
 チタリーザット 歌 優しい 夜鶯

フローレ レイテント ヴァリオ プレタ イム セレナ サルト ツェトウス アウイム
flore reident vario præta iam serena salit cetus avium
 花 笑う 色とりどりの 草原 はや 澄みわたる 飛ぶ 寂しい

シルヴェ ペル アメナ コールウス プロミット ヴァイグナム イム ガウデア ミルナ
silve per amena chorus promit viginum iam gaudia millena
 森 合唱隊 歌う 乙女 もはや 喜び 千の

3. VERIS LETA FACIES

輝く春の面は 世界をおおう

冬の厳しさは 敗れて逃げる

色とりどりの衣をまとい 春の女神フローラは統べる

森の奏でる調べの中で フローラは歌声に 褒め称えられる

フローラのひざに横たわり 日の神フィーブスは新たに

微笑む 多くの 花で飾られながら

西風ゼファーは 蜜の香りを伴い 吹いて行く

愛の賞を競うため みんなで急ごう

歌にさえずるのは やさしいフィロメル

色とりどりの花に 微笑むのは 明るい牧場 小鳥の群は飛ぶ

楽しい森の木々をぬって 乙女たちの歌声は 限りなき歓びを与える

5. Ecce gratum

エクツェ グラトゥ ム トオプタトゥム ウェル レトゥツイト ガウテイア
Ecce gratum et optatum Ver reducit gaudia,
 見よ 喜び と 願望 春 引き戻す 喜び

プウラプウラトウム フローレト プラトゥム ソル セレナ トオムニア
purpuratum floret pratum, Sol serenat omnia.
 深紅の 花 牧場 太陽 晴朗にする 全てのもの

ヤ ミアム ツェダント トリステリア エスタス レディト
Iam iam cedant tristia! Estas redit,
 すぐに 立ち去る 悲しみ 夏 回帰する

ヌク レツェーディト ヒュエミス セウイツイア
nunc recedit Hyemis sevitia.
 今 帰る 冬 苛酷な

ヤム リクヴェスツイ テト テクレスツイト グラント ニク セト ツェトラ
Iam liquescit et decrescit grando, nix et cetera;
 今や 溶ける そして 少なくなる 霰(あられ) 雪 等等

ブールマ フラギット エト ヤム スキグット ウェ レスタティ スペーラ
bruma fugit, et iam sugit ver estatis ubera;
 冬 過ぎ去る そして 今や 飲む 春 夏 乳房

イルリ メンズ エスト ミセラ クワイ ネク ヴィウイト
illi mens est misera, qui nec vivit,
 その人の 心 である 憐れである ~も~でない 生を楽しむ

ネク ラスツイウイト スク ベスタティス テクステラ
nec lascivit sub Estatis dextera
 ~も~でない 気ままである ~の下で 夏 右手の幸福な

グロリアントウ レト レタントウ リンメル ドウカルツェーニス クワイ コナントウ
Gloriantur et letantur in melle dulcedinis, qui conantur,
 栄光 と 喜び ~の中で 蜜 甘い (関・代) 試みる

ウー トゥタントウ プレミオ クピディニス シムス イウス ツュブリディス
ut utantur premio Cupidinis: simus iussu Cypridis
 ~のために 享受する 報酬 キュピット 愛の神 命令で ヴィーナス

グロリアンテ セト レタンテス パレ セッセ パリディス
gloriantes et letantes pares esse Paridis.
 誇りにする そして 楽しむ 等しい,似る ある パリス

5. Ecce gratum

見よ 楽しい 待ち焦がれた 春が歓びを呼び戻す

深紅の花の色に 牧場は花盛りだ 太陽はすべてのものを明るくする

さあ悲しみは捨て去ろう 夏は戻り

代りに遠ざかる厳しい冬

今や溶けて消える あられ 雪 その他もろもろ

霧は散る そして今 乳を吸うのは 春 夏の乳房に

かわいそうなのは 生を楽しませぬ男

気ままにしたいことをせぬ男 この夏の続べる時

誇らしく また楽しく 蜜にも似た 甘美にひたる者 それは自ら努めて

享受する者 キューピットの獲物を では我々も ヴィーナスの命ずるまま

誇りを持ち 陽気にやろう 昔のパリスと同じように

7. Floret silva nobilis.

フローレト シルヴァ ノビリス フローリブゥ セト フォリス
Floret silva nobilis floribus et foliis.
 花盛りである 森 気品ある 花 と 葉

ウビ エスト アンティクウス ム サミクス
Ubi est antiquus meus amicus?
 どこに いる 昔の 私の 恋人

ヒンク エクウイタヴィット エア クヴィス メー アマービット
Hinc equitavit, eia, quis me amabit?
 ここから 馬に乗っていく あーあ 誰が 私を 愛する

フローレト シルヴァ ウンディクヴェ ナー シン ゲゼルン イスト ミル ヴァイ
Floret silva undique, nah min gesellen ist mir we.
 花盛りである 森 いたる所 私の 恋人 ~である 私に 苦痛

グァルト デル ヴァルト アルントハルベン
Gruonet der walt allenthalben,
 緑色である 森 いたる所

ヴァイスト シン ゲゼルン アルセ ランゲ
wa ist min geselle also lange?
 何処に いる 私の 恋人 このように 長く

デル イスト ゲリテン ヒンネン オ ヴァイヴェル ゴル ミット シンネ
Der ist geriten hinnen, o wi, wer sol mich minnen?
 その人は である 馬で行く ここから あーあ 誰が だろうか 私を 愛する

8. Chramer, gip die varwe mir

クラメル ギブ デイ ファルヴェ ミル デイ シン ヴァンゲル レオーテ
Chramer, gip die varwe mir, die min wengel roete,
 小間物屋の主人 与える 紅 私に (関・代) 私の 頬 赤く染める

ダミット イット デイ エンゲン マン
damit ich die jungen man
 ~のために 私が 若い 男

アン イル ダンク デル シンネリーヘ ネオーテ ゼーイット ミット アン
an ir dank der minnenliebe noete. Seht mich an,
 おかげで 愛 利用する 見よ 私を

エンゲン マン ラト ミット ユー ゲファルレン
jungen man! lat mich iu gevallen!
 若い 男 ~させる 私を あなたは 気に入る

7. Floret silva nobilis.

気高い 森は 花盛りだ 花咲き 葉は 繁る

私の 昔の 恋人は どこにいるのか

その人は 馬にのって行ってしまった。私を愛してくれようか

森は いたる所 花盛りだ。私は 恋人を 恋慕う

森が いたる所 緑なら

なぜ 私の 恋人は 帰ってこないのだろう

彼は ここを去って行った。ああ 誰が私を愛してくれるだろう

8. Chramer, gip die varwe mir

店のおじさん 紅を下さい 私の頬を染めるんです

若い男達の心を引くためなんです

捉えて紅の力で恋をするためなんです さあ 私をごらんになって

若い男達 楽しませてあげよう

ミンネ トウゲントリーヘ マン ミンネクリーヘ フろウ^エン
Minnet, tugentliche man, minneclliche frouwen!
恋する 徳のある 男 愛らしい 女

ミンネ トウト ユウ ホオツホ ケムト
minne tuot iu hoch gemout
愛 なす あなたは 高く 心

ウンデ ラト ユウヒ イン ホオヘン エレン ショウウ^エン
unde lat iuch in hohen eren schouwen
そして させる あなた方を ~に 高い 誇り 押し上げる

ゼーイート ミツヒ アン ユンゲン マン ラト ミヒ ユウ ケ^フアールン
Seht mich an, jungen man! lat mich iu gevallen!
見よ 私を 若い 男 ~させる 私を あなたは 気に入る

ウ^オル デイ^ル ウ^エト タツ トウ ヒ^スト アル^ツ フろイ^ンソリーヘ
Wol dir, werlt, daz du bist also freudenriche!
幸いなり 世界 ということは あなたは ~である 又 喜びにみちて

化 ウ^イル デイ^ル ス^イン ウ^ンテ^ル タ^ウルヒ テ^イン リー^ヘ イ^メル ジ^ヘルリーヘ
Ich will dir sin undertan durch din liebe immer sicherliche.
私は つもり あなたは 心 従わせる あなたの 愛 いつも 確な

ゼーイート ミツヒ アン ユンゲン マン ラト ミツヒ ユウ ケ^フアールン
Seht mich an, jungen man! lat mich iu gevallen!
見よ 私を 若い 男 ~させる 私を あなたは 気に入る

9. Reie / Swaz hie gat umbe

シュウ^アーツ ヒイ ガト ウム^ヘ タツ ス^イント アル^ス メ^ゲーテ^テ
Swaz hie gat umbe, daz sint alles megede,
ここで 仲間 輪になって それは である 皆 乙女

デイ ウ^イ-レント アン マン アル^ン テ^イゼ^ン ス^ウメ^ル ガ^ン
die wellent an man allen disen sumer gan!
したい に 男 この この 夏 行く

Chume, chum, geselle min

ク^ウメ ク^ウム ケ^ゼルレ ミ^ン
Chume, chum, geselle min,
きなさい 仲間 私の

イ エ^ンビ^テ ハ^アル^テ テ^イン イ エ^ンビ^テ ハ^アル^テ テ^イン
ih enbite harte din, ih enbite harte din,

恋をしなさい 素敵な男も 愛らしい女も!

恋は心を勇敢にし

恋する者に 高い誇りを与えます

さあ 私をごらんになって 若い男達 楽しませてあげよう

待ちに待った世界よ 歓びに満ち溢れた政界!

私はあなたのしもべとなりましょう いつも あなたの愛に 捉えられて

さあ 私をごらんになってね 若い男達 楽しませてあげよう

9. Reie / Swaz hie gat umbe

ここで彼女らは輪になって踊る

彼女らは皆 乙女なのだ 誰も男を欲しがらない この夏のあいだには!

おいで おいで 私の恋人

一生のお願いだ 一生のお願いだ

クウメ クラム ゲセルエ シン スウツエる ろゼンファる^{ツェ} ムント
chume, chum, geselle min. Suzer rosenvarwer munt,
きなさい 仲間 私の 甘い ばら色の 口

クラム ウン マッヘ ミツヒ ゲズカント クラム ウン マッヘ ミツヒ ゲズカント
chum un mache mich gesunt chum un mache mich gesunt,
きなさい ~はする 私 元気 きなさい ~はする 私 元気

スウツエる ろゼンファる^{ツェ} ムント
suzer rosenvarwer munt
甘い ばら色の 口

Swaz hie gat umbe (☆印 くりかえし)

1 0. Were diu werlt alle min

ウエレ デュウエる アル シン フォン テム メレ ウンツェ アン テン リン
Were diu werlt alle min von deme mere unze an den Rin
もし~なら 世界 すべて 私のもの から 海 まで ライン河

デス ウォル テー ミー ダるベン
des wolt ih mih darben,
私は 私を 破壊する

ダツ デュ クュネギン フォン エンゲラント レーゲ アン ミネン アるメン
daz diu chünegin von Engellant lege an minen armen.
女王の の イギリス 横たえるに 私の 胸

1 4. In taberna quando sumus

イン タバーナ クヴァント スムス イン クラムス クワイト シト フラムス
In taberna quando sumus non curamus quid sit humus,
で 居酒屋 の時 我々がいる ない 心配する どんな 地面

セ タド ルダム フラペラムス クワイ セムペ リンスタダムス
sed ad ludum properamus, cui semper insudamus.
すわる の方へ 賭け事 急ぐ その人が 常に 汗ばむ

クワイト タガトゥ リン タバーナ ウビ スムム セスト ピンツエるナ
Quid agatur in taberna ubi nummus est pincerna,
どのように 振舞う 居酒屋で その場所で 金銭 がある 酌取り

ホオ ケ ストオプアウサウト クヴェラトウル シ クワイト ロクヴァる アウデアトウる
hoc est opus ut queratur, si quid loquar, audiatur.
この様な事 である 当然 然し 尋ねる もし~なら その事を 話しかける 聞く

おいで おいで 私の恋人 ばら色の日よ

ここへ来て 私の気分をよくしておくれ

1 0. Were diu werlt alle min

たとえ世界が全部吾がものになるのでも 海からライン河まで 全部そう
であつても

私はあえて 餓死するだろう

英国の女王を 私の腕に横たえるためならば

1 4. In taberna quando sumus

我々が居酒屋にいる時は 場所がどこかは気にしない

そして すぐ賭を始める 賭は汗をかくものだ

居酒屋の中の出来事 金が執事のその居酒屋での事なら

ここでたずねるがよい 私が教えたら 聞くがよい

クワ^イダム ルウト^ウント クワ^イダム ビ^ブント クワ^イダム イン^デイスクレテ ウ^イヴァント

Quidam ludunt, quidam bibunt, quidam indiscrete vivunt.
在る者は 賭けをする 在る者は 飲む 在る者は 区別なしに 楽しむ

セ テ^イン ルウト^ウ クワ^イ モラ^ントウ^ル エクス ヒ^イス クワ^イダム テ^ヌダ^ントウ^ル

Sed in ludo qui morantur, ex his quidam denudantur
すわる に とどまる 在る者は 裸にする

クワ^イダ^ム ミ^ビ ウ^エスティウ^ントウ^ル クワ^イダ^ム サク^ツイ シ^ント^ウウ^ントウ^ル

quidam ibi vestiuntur, quidam saccis induuntur.
在る者は そこで 着物を着る 在る者は 袋 あるものを着せる

ヒ^ビヌル^ルウス テ^イムト モ^ルテム セ^ト プ^ロ バ^クコ ミ^ツト^ウウ^ントウ^ル ソ^ルテム

Ibi nullus timet mortem sed pro Baccho mittunt sortem.
そこで 誰でもない 恐れる 死 でなくてのために 酒神 投げる くじ

プ^リモ プ^ロ ヌ^ムマ^タ ウ^イニ エクス ハ^ク ビ^ブント リ^ベル^テニ

Primo pro nummata vini, ex hac bibunt libertini;
はじめに のために 金持ち 葡萄酒を飲む から それ のむ 解放された奴隷

セ^ムル ビ^ブント プ^ロ カ^プティ^ウイス ホ^スト ヘ^ク フ^ビント テ^ル プ^ロ ウ^イニス

semel bibunt pro captivis, post hec bibunt ter pro vivis,
ただ一度 のむ 囚人 あとで その 3度目 生きている人

クワ^アル^テル プ^ロ ク^リスチ^アニス ク^クク^テイス ク^ウインク^ウニス プ^ロ フ^イデリ^ブス テ^フンク^テイス

Quarter pro Christianis cunctis quinquies pro fidelibus defunctis,
4度目 キリスト教徒 全ての 5度目 信徒 死者

セ^クス^イニス プ^ロ ソ^ロリ^ブス ウ^アニス セ^プティ^エス プ^ロ ミ^リティ^ブス シ^ルヴァ^ニス

sexies pro sororibus vanis, septies pro militibus silvanis.
6度目 姉妹 無節操な 7度目 兵士 森の

オ^クツ^イニス プ^ロ フ^ラトリ^ブス ペ^ルウ^エル^シス ノ^ニニス プ^ロ モ^ナヒ^ス テ^イス^ペル^スニス

Octies pro fratribus perversis, nonies pro monachis dispersis,
8度目 兄弟 偽りの・邪悪な 9度目 僧侶 散乱せる

デ^シニス プ^ロ ナ^ウイ^ガン^テイ^ブス ウ^ンテ^ツニス プ^ロ ディ^スコ^ルダン^テイ^ブス

decies pro navigantibus, undecies pro discordantibus,
10度目 航海者 11度目 抵抗者

ド^ウデ^ツニス プ^ロ ペ^ニテン^テイ^ブス ト^レデ^ツニス プ^ロ イ^テル ア^ゲン^テイ^ブス

duodecies pro penitentibus, tredecies pro iter agentibus.
12番目 行進 行為者

タ^ム プ^ロ パ^パ ク^ワム プ^ロ レ^ゲ ビ^ブン ト^オム^ネス シ^ネ レ^ゲ

Tam pro papa quam pro rege bibunt omnes sine lege.
~と同様に 法皇 王家 のむ すべての人 なしに 規則

賭をする者 酒を飲む者 あるいは両方楽しむ者もいる

だが賭けをしに残っている者の中には 着物を取られた 裸の者もいれば

まだ着ている者もいる 金袋で体をおおう者もいる

そこでは誰も死を恐れない 皆バッカスの為に くじを引く

酒を買ってくれた御方の為に一度 自由な人々はその酒を飲む

それから囚われ人の為に二度 次に生ける者の為に三度

全キリスト教徒の為に四度 信仰に死せる者の為に五度

か弱い姉妹の為に六度 森を護る兵士の為に七度飲む

罪深い友の為に八度 各地に散った僧侶の為に九度

船乗りの為に十度 けんかする者の為に十一度

悔い改める者の為に十二度 旅に出る者の為に十三度

法王の為に国王と同じ回数だけ 誰もが許しもなく飲む

ビビト ヘラ ビビト ヘルス ビビト ミレス ビビト クルス
Bibit hera, bibit herus, bibit miles, bibit clerus,
主婦 主人 兵 聖職者

主婦も飲む 主人も飲む 兵隊も飲む 牧師も飲む

ビビト イレ ビビト イラ ビビト セルウイス クウ マンツイル
bibit ille, bibit illa, bibit servis cum ancilla,
彼 彼女 奴隷 と一緒に 女中

この男も飲む あの女も飲む 下男も飲む 女中も飲む

ビビト ウェロクス ビビト ピゲル ビビト アルブス ビビト ニガ
bibit velox, bibit piger, bibit albus, bibit niger,
機敏な のろい 白い 黒い

すばしこい男も飲む のろまも飲む 白人も飲む 黒人も飲む

ビビト コンスタンス ビビト ヴァグウス ビビト ルーデイス ビビト マグウス
bibit constans, bibit vagus, bibit rudis, bibit magus.
固定の 不定の 未熟な 魔術の

常連も飲む 立ち寄りも飲む 間抜けも飲む 賢者も飲む

ビビト パウペ レト エグロトウス ビビト テクス レ テイクノトウス
Bibit pauper et egrotus, bibit exul et ignotus,
貧しい 追放された人 よそ者

貧乏人も飲む 病人も飲む 追放者も飲む よそ者も飲む

ビビト プウエル ビビト カーヌス ビビト プレスル レト デカヌス
bibit puer, bibit canus, bibit presul et decanus,
男の子 老人 司祭、僧 司祭長

少年も 白ひげも飲む 僧正も 司祭長も飲む

ビビト ソロル ビビト フラテラ ビビト アヌ ビビト マテラ
bibit soror, bibit frater, bibit anus, bibit mater,
姉妹 兄弟 老婆 母

姉も飲む 兄も飲む 老人も飲む 母も飲む

ビビト テイスタ ビビト テイルレ ビビト ツェントゥム ビビト ミルレ
bibit ista, bibit ille, bibunt centum, bibunt mille.
彼女 彼 百人 千人

あの女も飲む この男も飲む 百人も 千人も飲む

パラム セクスツェンテ ヌムマテ ドゥラント クウ ミムテラテ
Parum sexcente nummate durant, cum immoderate
少なすぎて 600 銀貨 持ちこたえる 限度の無い

六百ペンスは少なすぎて 長持ちしない

ビブント トムネス シネ メタ クウアム ウィス ビバント メンテ レタ
bibunt omnes sine meta. Quamvis bibant mente leta,
すべて なにし 限度 たとえ〜であっても 死

限りなく みんなが飲む時は 愉快地に飲めるだけ飲ませるがよい

シク ノース ロドゥン トムネス ゲンテ セト シ ケリムケ セゲンテス
sic nos rodunt omnes gentes et sic erimus egentes.
同様に 我々との かじる すべての 人種 そして 貧乏な

このように人は皆われわれを苦しめる その為 とても 貧しくなるのだ

クワイ ノス ロドゥント コンファンダントゥ オレト クム ユステス ノン スクリバントゥル
Qui nos rodunt confundantur et cum iustis non scribantur.

我々を苦しめる者は 戸惑うがいい 正しい者とは 区別されるがいい

18. Circa mea pectora

ツイルカ マア ペクトル(ル) ムカルタ スラント スラスピ^リア
Circa mea pectora multa sunt suspiria
 のまわりに 私の 心 たくさん ある ため息

デ トウア プアルヒリトウテ^イネ クウ^エメ テ^トラント ミゼ^レ
de tua pulchritudine, que me ledunt misere.
 のために あなたの 打つ^じすさ 私を 傷つける あわれにも

マンダ^リエト マンダ^リエト シン ゲゼ^ルル クウメ^ト ニエ^ト
●Manda liet, Manda liet min geselle chumet niet.
 私の 恋人 来る ない

トウイ ルウツェント オクウ^リ シクウ^ト ソリス ラ^テイ
Tui lucent oculi sicut solis radii,
 あなたの 明るい 目 のように 太陽の 光

シクウ^ト スプレ^ント^オル フウルグ^リス ル^ツェム ト^オナト テネ^ブリス
sicut splendor fulguris lucem donat tenebris.
 のように 光 稲妻 光 与える 闇

(●印 くりかえし)

ウ^エルレ^ト デ^ウス ウ^エルレ^ント テ^イイ クウ^オト^ムンテ プ^ロホ^スウイ
Vellet deus, vellent dii quod mente proposui.
 神 神様達 多く 約束する

ウ テ^イウス ウ^イるギ^ネ レ^セラ^スセム ウ^インク^ウア^ラ
ut eius virginea reserassem vincula.
 ように その 乙女の 開く・かんぬきを外す 鎖

(●印 くりかえし)

19. Si puer cum puellula

シ プ^ウエ^ル ク^ウム プ^ウエル^ウラ モ^ラれ^トリ^ン ツ^エル^ウラ
Si puer cum puellula moraretur in cellula,
 もし~なら 男の子 少女 の中に 小部屋

フェ^リクス コン^ユク^ツウ^イオ ア^モレ ス^ウスク^レス^ツェ^ンテ
felix coniunctio. Amore suscescente
 幸福な 結合 愛

パ^リテ れ^テイ^オ ア^ウル^ツ プ^ロク^ウル^テイ^オ
pariter e medio avulso procul tedio,
 同時に から 中間 遠去かる 遠くへ 退屈

18. Circa mea pectora

私の心は ため息ばかり

あなたの美しさに焦がれて 哀れに私を傷つける その美しさ

マンダリエト マンダリエト 私の恋人は 帰ってこない

あなたの目は輝く 太陽の光のように

稲妻の輝きのように 闇を照らす その輝きのように

神よ叶えたまえ 私が心に願ったことを

あの乙女の 固い心を 開かせることを

19. Si puer cum puellula

若者と乙女が 小部屋にいれば

その結びつきは 何と幸せなことだ 恋が芽生え

その二人の間から 退屈が消え去るにつれて

フィット ルクトゥス イネフファビリス メムブリス ラツェルテイス ラビエイ
fit ludus ineffabilis membris, lacertis, labii
行われる 遊び 言いにくい 肢 腕 下唇

20. Veni, veni, venias

ウエニ ウエニ ウエニアス ネ メ モリ ファツィアス
Veni, veni, venias, ne me mori facias,
来る でない 私を 死ぬ (あることを)させる

ヒュールカ ヒュールツェ ナツァツァ トリリリウオス
hyrcra, hyrcce, nazaza, trillirivos...

プアルフラ テイビエイ ファツィエ ソカローウ マツィエス
Pulchra tibi facies oculorum acies,
美しく あなたを させる 目の するどいまなざし

カピルローラム セリエス オ クヴァム クララ スペツィエス
capillorum series, o quam clara species!
頭髪 結んだ おお なんと 光り輝く 美しい姿

ロザ ルビクアンディオル リーリオ コンディエイオス
Rosa rubicundior, lilio candidior
ばら 赤い 百合 純白の

オムニブウス フォルモシオス セムペ リン テ グロリオス
omnibus formosior, semper in te glorior!
すべて 形の良い つねに あなたを 誇りにする

22. Tempus es iocundum

テムプウ セス ヨクアントゥム オウイリギネス
Tempus es iocundum, o virgines,
時 である 快適な おお 乙女

モトオ コンカウテータ ウオス ユウエネス
modo congaudete vos iuvenes.
さあ 一緒に喜ぶ

オー トオトゥス フローレオ ヤ マモーレ ウイリギナリ トオウ サルデオ
★Oh, oh, oh, totus floreo, iam amore virginali totus ardeo,
すべて 花盛りである 今や 愛 乙女の すべて 燃える

ノウウス ノウウ サモー レスト クウオペレオ
novus, novus amor est, quo pereoo.
新しい 愛 である 死ぬほど恋焦がれる

いい難しい遊びが始まる 手足で 腕で 唇で

20. Veni, veni, venias

おいで おいで さあおいで 私を焦らさないで

ヒルカ ヒルカ ナザーザ トリリリヴオス

あなたの美しい顔 あなたの眼差

ふさふさした髪 おお何と輝かしい姿

バラよりも赤く ユリよりも白く

何よりも美しい 私はいつもあなたが自慢なのだ!

22. Tempus es iocundum

楽しい季節だ おお乙女らよ

さあ楽しむがよい 若者達よ

おお おお おお 私の全身は燃える 乙女への恋の為にもはや 身も心も燃え尽きるのだ

新鮮な恋なのだ 私を死ぬほど焦がすのは

メア メ コンフォるタート プろミスイオ メア メ デーホるタート
Mea me confortat promissio, mea me deportat
強くする 約束する おろす、下げる

ネガツイオ
negatio
否定

(★印 くりかえし)

テムボれ プるウマーリ ヴィるパツイエンヌ アニモ ヴェるナリ ラスツイウイエンヌ
Tempore brumali vir patiens, animo vernali lascivens.
時 冬 男 忍耐強い 生命付ける 張るの 気まぐれに

(★印 くりかえし)

メア メクム ルウーティ ヴィるギニタス メア メ テトるウティ シムプリタス
Mea mecum ludit virginitas, mea me detrudit simplicitas.
からかう 乙女 押しやる 単純

(★印 くりかえし)

ウエニ トミツェラ クム ガウティオ ウエニウエニプウハら ヴム ペれオ
Veni, domicella, cum gaudio, veni, veni, pulchra, iam pereo.
来る 乙女 と共に 喜び 来る 来る 美しい すでに 死ぬ

(★印 くりかえし)

24. Ave formosissima

アウエ フォるモシシマ ゲムマ プレツイオーサ
Ave formosissima, gemma pretiosa,
幸いあれ 最も美しい 宝石 高価な

アウエ テクウス ヴィるギヌム ヴィるゴ グロリオーサ
ave decus virginum, virgo gloriosa,
幸いあれ 美しい 処女 処女 栄光にみてる

アウエ ムンディ ルウミける アウエ ムンディ ローサ
ave mundi luminar, ave mundi rosa,
幸いあれ 世界の 光 幸いあれ 世界の ばら

ブランツィフロー れト ヘレナ ヴェヌス ヴェネーラ
Blanziflor et Helena, Venus generosa!
(美女の名前) 美の女神 けろす

25. (全文1. と同じ)

私が強くなるのは 約束するとき しおれるのは

拒むとき

冬には 男は我慢強い 春そよ風が吹く頃は 気ままになる

私がからかわれるのは 私が処女だから 私が馬鹿にされるのは
私がかうぶだから

おいで恋人よ 喜び勇んで おいで おいで 私の可愛い人
もう私は死にそうだ

24. Ave formosissima

たたえよ 最も美しい 貴い宝

たたえよ 乙女の誇り 輝ける乙女

たたえよ 世界の光 たたえよ 世界のバラ

ブランチフローとヘレナ 気高きヴィーナス!

25. (全文1. と同じ)